

土蔵に残る荒川洪水の水位について

—安政6年、秩父下田野の例—

The mark of water level on the wall of a storehouse, imprinted by the Arakawa flood

— An example in 1859 at Shimotano, Chichibu —

高橋 孝久*

TAKAHASHI Takahisa*

荒川洪水の高水位記録については、埼玉県が実施した荒川総合調査の報告書『荒川 人文Ⅱ』(1988)などに発表されているが、ここに紹介する事例は、安政6(1859)年と伝える洪水の高水位が土蔵の内壁に付着していたものである。その場所は、埼玉県秩父郡皆野町下田野120番地の瀧沢シゲ子さん宅の土蔵である(下図)。当所は、荒川右岸側の河岸段丘上にあつて、前書に収録されている持田久二氏の洪水碑よりも上流約400mの地点である。荒川はこの付近で、東流してきた河身を北へ屈曲する曲がりっぱななにあり、増水しやすい。田野沢川もここで荒川に合流する。瀧沢家からここまでは約100mである。

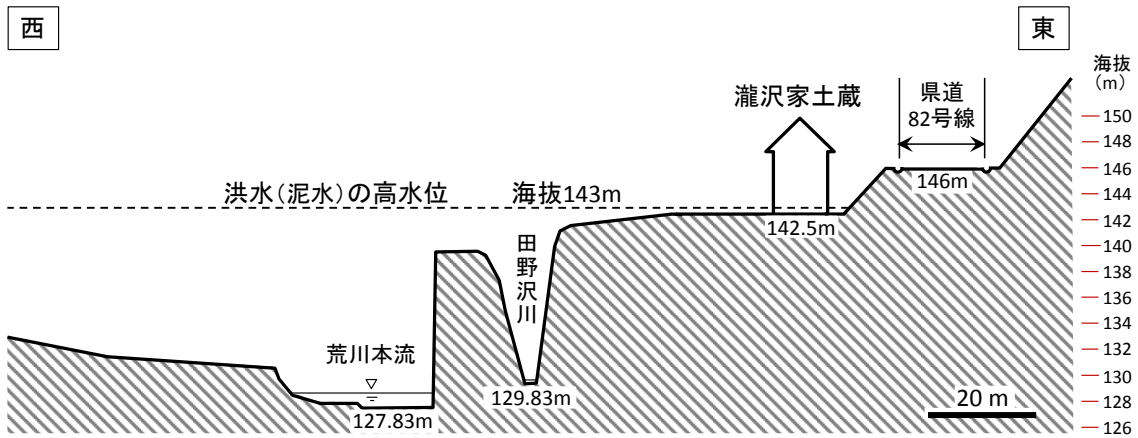
最近高まっている災害史研究に役立てばと、以下紹介するものである。本稿を草するに際し、吉川國男・本間岳史の両氏からご助言とご協力をいただいた。



写真(次頁)の説明

- ①瀧沢家の母屋と土蔵(奥の白壁屋)。洪水の高水位=泥水痕は内壁の下部(土床から約50cm上)にあつたが、現在は拭かれたか塗り替えられたかして見ることができない。この水位は海拔143mである。瀧沢家は、荒川の支流 田野沢川の右岸側に接して屋敷地がある。
- ②田野沢川に架けられている橋。上流から撮影。
- ③同上の橋を下流の河床から撮影。橋の高さは河床から3.85m。
- ④同上の橋付近の田野沢川の河況。橋から上流方向を撮影。
- ⑤荒川本流に流れこむ約40m上流地点の田野沢川。河床幅約7m。
- ⑥荒川本流の河床(河口から120.2km地点)。田野沢川・荒川合流点の崖上から撮影。

*会員



龍沢家土蔵の高水位を示す東西模式断面図（昭和58年の埼玉調査資料等より作図）

